リハビリテーション科　この１年

ＰＴ　坂　本　雅　則　・　ＯＴ　内　田　喜　大

理学療法部門

PT部門のスタッフは臨時職員を含めて７名と変わりありませんが，各PT専門学校からの実習生が９名来られました．また，名寄光凌高校からインターンシップ（就業体験）として２名来られました．多くの学生等が来るという事は，スタッフ側も技術の面で正しい指導を，更に見本となるべく規律を示さなければならないので，かえってよりよい刺激になっていると思います．なお，OT部門を含めたリハビリ科として全体の実習指導料は年間130万円程度であり，病院経営に微力ながら寄与しているものと考えています．

診療体制ですが，当院は急性期病院であり当部門も基本的にこれに準じなければならないと考えています．病院の機能にそった当部門を構築しなければならない．つまり，入院患者さんに手厚く診療ができるようにするため，外来患者さんの診療回数に制限を設ける必要が出てきました．この背景には，患者数増のため訓練必要度の高い急性期患者さんを診れにくくなってきたこともありました．また，国の診療方針でも急性期疾患には報酬上手厚い設定となりました．医師との話し合いの中で，発症６ヶ月を越えた外来患者さんは週２回から１回とさせていただきました．もちろん，患者さんからご批判を頂きもしました．痛みなくして改革なし，と誰かは言っていましたが誠でありました．その分，我々には地域リハビリテーションの重要性が問われてくるし，マネージメントが求められるでしょう．他リハビリ関連施設との連携であったり，名寄地区機能訓練事業や訪問リハビリの充実であろう．名寄地区機能訓練事業は7年を経過し，初心に返るべくリハビリ教室通所者に対して現在，アンケート調査を実施している所であります．この事業に対する要望を把握し，事業のあり方について検討する所存であります．

作業療法部門

作業療法部門のスタッフは作業療法士２名，助手２名と変わりはありません．

実習生は５養成校から臨床実習５名，評価実習２名，見学実習２名を受け入れました．人材の育成，指導も地域の医療に貢献するという意味で作業療法業務の一部だと考えております．

全国的に精神科の病床数は減少傾向にあると聞いており，当院作業療法部門は貴重な実習施設となっています．また北海道での作業療法養成校の増加に伴う学生数の増加により来年度から更に１校増える予定です．

今年の作業療法プログラムでは，４月から月に１回ビデオ上映会を始めました．準備は暗幕，座席，スクリーン，プロジェクター等の設置で大変です．しかし参加者が映画（１つの事）に集中したり，みんなが一緒に笑ったりする（所属感，気分転換）場面等を見ると治療的意義がかなりあると思います．また１回に約60名程参加しますので，診療点数的にも微少ですが貢献していると思います．

来年の目標として，当院患者さんの作業療法技術の向上を目指すべく，勉強会や学会等に積極的に参加していきたいと思います．そのことがより多くの患者さんの参加，サービスの向上につながり，診療点数の増加につながると思われ，病院経営にも貢献していきたいと思います．